

目的 縫い易さの一つの目安として、布を通る針にかゝる力をとりあげ、布に糊付あるいはオイリング等の處理をした場合に、針にかゝる力がどのように変わるかを明らかにする。

方法 布としてはブロードタウスのを用い、これに糊付およびオイリング處理を行つた。糊剤は花王洗濯糊、オイリングはソフランを用いて常法により處理した。

結果 まず針にかゝる力が縫い易さの目安になるかどうかを調べるために、5~10年の縫製経験をもつ専門家が縫い易いと評価した布と縫い難いと評価した布に針を通して針にかゝる力を測定したところ、前報<sup>1)</sup>のように縫い易い布の場合は60%以下、縫い難い布の場合は100%を超えた。即ち、針にかゝる力は縫い易さの一つの要因になりうると考えられる。糊付をしたブロードの場合には、針にかゝる力は無處理の場合より大きく、糊の付着量の多いものほど大きい。オイリング剤で處理したブロードの場合には針にかゝる力は無處理の場合より小さく、オイリング剤の付着量の多いものほど小さい。針に油を塗布してもこの力は必ずしも小さくなるかつたのに、布をオイリング處理すると顕著に小さくなると言うことは、針にかゝる力の生成要因を知る上で重要な手がかりを与えてくれると思われ。また、布を水で濡らしたとき、繊維が容易には水で膨潤しない布の場合は布と針の間の摩擦が減るため針にかゝる力は減少するが、綿のように繊維が水で膨潤する布の場合には針にかゝる力は増大する傾向がある。

1) 宮本教雄、矢田洋子、村瀬美代子、道家望き、中保治郎、家政学会中部支部総会講演 昭和66年5月。